

付 属 資 料

1. 自由記述の整理結果

- (1) 就職課・キャリアセンターとして今後行ってみたい事業等（第3章関連資料）
- (2) 就職支援のために検査を実施することの効果について（第4章関連資料）
- (3) 職業情報等への今後の期待について（第5章関連資料）
- (4) キャリア教育関連授業への関わりがある場合の具体的内容（第6章関連資料）

2. 調査票

1. 自由記述の整理結果

(1) 就職課・キャリアセンターとして今後行ってみたい事業等 (第3章関連資料)

①キャリア教育関連	
◆低学年からの対策(13件の記述あり。以下に一部を紹介)	
○	1、2年次の早期の段階から支援が続けられる仕組みづくり。(大学)
○	1年次からの自発性・積極性を高める事業(企業と連携した課題解決型学習)(大学)
○	低学年に対する職業観・就職意識の醸成(2年生対象の職場見学・研究後、その発表を1年生に対して行う等)。(大学)
◆カリキュラム・教育の充実(12件の記述あり。以下に一部を紹介)	
○	キャリア教育の全学的な展開(大学)
○	キャリア教育の一環として、カリキュラムにはない合唱指導法や吹奏楽指導法などのセミナーを実施したい。(大学)
○	基礎学力養成に関すること(短大)
○	「リケジョ」へのキャリア教育(高専)
○	新入学時に、合宿等による学生同士の相互理解、学校の中での居場所づくり等(専門学校)
◆教育と支援の連携(4件の記述あり。以下に一部を紹介)	
○	キャリア支援を通して得たノウハウを積極的に正課授業に反映させるもの。(大学)
○	現状考えられることは実施している。
○	更に授業との連携、授業の成果物が就職活動に活かせるようなネットワーク管理できるポートフォリオシステムを導入、浸透させたい(短大)
②就職支援イベント・サービス関連	
◆卒業生との連携強化(15件の記述あり。以下に一部を紹介)	
○	卒業生・現職卒業生からの体験発表と情報交換交流会(大学)
○	まだ若い大学なので、OG、OBと在校生との交流会やOB、OG訪問を制度化していきたい。(大学)
○	同窓会と連携したOGの活用(大学)
○	卒業生を迎えての先輩からの就活への進め方など講話(専門学校)
◆企業説明会等の実施(14件の記述あり。以下に一部を紹介)	
○	学内合同説明会の定期開催(大学)
○	未内定者・既卒者を対象とした合同企業説明会(大学、短大)
○	企業・団体交流見学会(スタディーツアー)(大学)
◆インターンシップ支援(10件の記述あり。以下に一部を紹介)	
○	インターンシップから就職へつなげることで学生、企業双方のミスマッチを防ぐ就職活動をすすめていきたいと考えています。(大学)
○	地元企業等での長期インターンシップの推進(大学)
○	インターンシップについてのセミナー、インターンシップ事前研修(大学、短大)
◆企業研究等の講座(9件の記述あり。以下に一部を紹介)	
○	グループワーク体験講座、より様々な業界毎の研究講座(大学)
○	社会人基礎力養成のために企業から講師を派遣していただき、PBLを行いたい。(大学)
○	深化した企業分析等(大学)
◆各種情報提供の充実(10件の記述あり。以下に一部を紹介)	
○	親のための就職説明会(大学)
○	働くことのルール等に関する情報提供(大学)
○	Webを活用した学生への情報提供(大学、短大)
○	保護者説明会を開催し、本学のキャリアサポート体制と、家庭での支援について(内定後の生活のあり方等)保護者の方にもご理解をいただく(短大)
◆未内定者・既卒者支援(7件の記述あり。以下に一部を紹介)	
○	未内定者支援の充実(大学)
○	卒業生の再就職支援(短大)
○	卒業生の求職者に対する人材バンク事業(専門学校)
◆求人開拓、学校広報(4件の記述あり。以下に一部を紹介)	
○	積極的な企業訪問(大学)
○	企業における本学の認知度の向上(大学)
◆学外との交流(5件の記述あり。以下に一部を紹介)	
○	就職活動を行う学生と社会人との交流会の実施(大学)
○	他大学の学生との交流(合同でグループディスカッションやグループワークなど)(大学)
○	他校との交流(専門学校)
◆学生の就活アクセスの改善(3件の記述あり。以下に一部を紹介)	
○	就活バス・首都圏での拠点設置(大学)
○	合同セミナーなどへのバスツアー(大学)
◆公務員等対策(4件の記述あり。以下に一部を紹介)	
○	公務員希望者を対象とした就職ガイダンス(公務員不合格の場合のキャリアビジョンについて)(大学)
○	公務員試験対策(短大)

(1) 就職課・キャリアセンターとして今後行ってみたい事業等 (第3章関連資料) <続き>

◆その他の支援プログラムの充実(31件の記述あり。以下に一部を紹介)	
<input type="radio"/>	コミュニケーションスキルの向上を図るファシリテーションなどのプログラム(大学)
<input type="radio"/>	学生を連れての工場見学や企業見学(大学)
<input type="radio"/>	身体障害やメンタルヘルス面で問題を抱える学生の就活支援(大学)
<input type="radio"/>	ワンポイント身だしなみメイク講座(大学、短大)
<input type="radio"/>	女子学生対象のキャリア支援事業(高専)
<input type="radio"/>	宿泊合宿形式の就職セミナー(1泊2日)(専門学校)
<input type="radio"/>	卒業生の退職率を減少させるための対策(専門学校)
<input type="radio"/>	メンタルが弱い学生への対応強化。(専門学校)
③職員の能力開発(7件の記述あり。以下に一部を紹介)	
<input type="radio"/>	学生の最も身近にいる担当教員のキャリア支援意識の向上事業(大学)
<input type="radio"/>	教員のキャリア教育及び就職指導への意欲の向上とスキルアップを目的とする研修会を行い、全学的に取り組めるようにしたい。(大学、短大)
<input type="radio"/>	職員一人一人のスキルアップ(大学、短大)
④進路状況の把握(8件の記述あり。以下に一部を紹介)	
<input type="radio"/>	過年度卒業生の進路状況の把握とフォロー(大学)
<input type="radio"/>	本学の就職競争力(就職率ではなく)の実態を調査したい。(大学)
<input type="radio"/>	卒業生の就職後追跡調査(短大、高専、専門学校)
⑤現行サービスの改善・推進(6件の記述あり。以下に一部を紹介)	
<input type="radio"/>	希望者中心のイベントではなく、全員参加が前提のイベントを増やしたい。(大学)
<input type="radio"/>	高校では、キャリア支援の経験が薄く、大学に入り初めて自分自身についてや選択した学部・学科の選択や自分の将来について考え始め、休学や退学をする学生を目の当たりにする。 教職員の連携によるこの学生たちが相談し易い環境と居場所を提供しキャリア支援の再構築を行っていききたい。(大学)
<input type="radio"/>	キャリア支援のワンストップ化(現在は、キャリア教育(インターンシップ支援含む)と就職支援が分断されている)(大学)
⑥その他(7件の記述あり。以下に一部を紹介)	
<input type="radio"/>	企業と共にキャリア教育・採用について考えるシンポジウム等開催(大学)
<input type="radio"/>	よりきめこまかく、各学生の就職活動をフォローしていきたい(大学)
<input type="radio"/>	小学校→中学校→高校→大学→就職というルール意識ではなく「自立」という意識を持たせることを進めていきたい。(短大)
<input type="radio"/>	それだけを専門に行っているわけではなく、兼務しているため、中々新しい事業を行う余裕がない。(専門学校)

(2) 就職支援のために検査を実施することの効果について (第4章関連資料)

◆ 学生自身の自己理解・自己分析に役立つ(59件の記述あり。以下に一部を紹介)

- 学生の自己理解、自己分析に役立つ。(大学、短大、専門学校)
- 学生の自己理解を深め、適職への道を開くことに役立つ。(大学)
- 学生が自分の強みと弱みを理解できる。学生生活の経験を通して身についた能力を自ら認識できる。(大学)
- 学年が上がるにつれて、能力(社会に対応する力)が上がる理由として、様々な場面での経験が確実に自分の力になっている。ということを経験者が自覚できる(大学)
- 自己分析、PRの参考資料となり、有効活用できる。
職業選択の動機付けになる。(大学)
- 学生が自分の興味、能力、価値観や強み弱みを把握する為の参考にできる。またこのような検査に取り組む中で、就職や、キャリアプランを考えるきっかけとなる。(大学)
- 学生は、自分の知らなかった強みや弱みの持ち味に気づくことができる。(大学)
- 学生が自身で気付かなかった長所や職業適性について気づききっかけとなる。(短大)
- 自己理解の第一歩としての位置づけと個人面談時の資料として。(専門学校)

◆ 就職意識の向上・きっかけ作り(42件の記述あり。以下に一部を紹介)

- 就職意識を醸成する契機となる。(大学)
- 学生が現状を認識し、その後の学生生活並びに卒業後のキャリアを考えるきっかけになる。(大学)
- 就職活動をするにあたってのきっかけ作りになっている。また、自分の特徴や長所がわからず自己PRなどで悩んでいる学生には良い検査。(大学)
- 低学年次に実施することで、入学した時から自分自身の関心・興味について振り返り、掘り起し等を行うことができ、また学年進行に従って学部での勉強の指針・方向性などを、ある程度考えるきっかけとなりうる。(大学)
- 就業意識を高める。(短大)
- 学生自身の進路選択に対する意識が低下しつつある中、その意識を向上させることに役立てるのではないかと考えられる。(大学、高専)

◆ 学生の指導の資料として(31件の記述あり。以下に一部を紹介)

- 学生が自身の適性を理解するとともに、職員が求人紹介などの支援をする際に役立っている。(大学、短大、専門学校)
- 個々の学生の傾向を把握し、個別指導に当たって役立っている。又、トータルの傾向など付随するデータは就職のみならず、学内各部所で活用している。(大学)
- 本学の支援を強化しなければならない点を明確にすること、学生の弱点を理解すること。(大学)
- キャリアカウンセリングにも有効であり、学生自身にもメリットが大きい。
データ蓄積をすることにより、様々な比較ができ、年間行事を考えるベースにもなると考える。(大学)
- 資格等に特化していない学科構成の場合は何かしらの検査の結果を基に職業の指導が必要とは思っている。(短大)
- 教職員の指導参考資料となる。(短大)
- クラス担任が学生の性格の特徴や基礎学力の定着について認識できる。(高専)
- 専門学校の入学者は様々な学力・能力のある学生が集まります。①対人力②意思活動③積極性④協調性⑤ストレス耐性など本人・教員が知ることが就職活動に役立つと考えております。(専門学校)

◆ 客観的な判断ができる(26件の記述あり。以下に一部を紹介)

- 現在の自分の能力、興味、関心などを客観的に(客体化して)見ることができる。(大学、短大、高専、専門学校)
- 就活において、自己理解が不足している学生が、自らを客観視することができるのが利点。それによって職業選択の幅が広がることもある。(大学)
- 本学生のみならず他大学生の参加もあり、全体的なスケールメリットがある。(大学)
- 個別面談のみでは得られえない客観的データが得られる指導に役立てられる。(大学)

◆ 職業理解・職業への関心の喚起に役立つ(19件の記述あり。以下に一部を紹介)

- 自分を知る作業の1つとして効果的(就活中、今後のビジネス社会での自分自身のマネジメントにも役立つ)職業関心(興味)の範囲を広げるツールの1つとして効果的。(大学)
- 検査結果を見ることによって、自分の適性について認識が深まり自信につながる。また、他の業界、職種へ目が向くことにもつながり、活動の幅が広がる。(大学)
- 就職先企業選定のための判断材料となる。(適性など)(短大)

◆ 就職試験に役立つ(8件の記述あり。以下に一部を紹介)

- 公立の教員・保育士の採用試験はペーパーテストのウェイトが重いので、検査実施は学生にとっても、指導する側にとっても有用である。(大学)
- 企業の採用選考の筆記試験に効果あり。(短大)

(2) 就職支援のために検査を実施することの効果について(第4章関連資料)〈続き〉

◆ 進路選択をする上での参考になる(10件の記述あり。以下に一部を紹介)

- 進路選択を検討するうえで参考になる。(大学、短大)
- 検査結果を、個々の活動の参考にするため。(大学)
- 学生が進路選択する際の、一つの材料となる。(高専)

◆ 具体的な活用方法の記載(4件の記述あり)

- ①社会人キャリアカアセスメント 1・2年生時に実施し、社会人基礎力を検証するとともに、学生に気づきを与えらるるとともに、キャリア支援に役立てる。
- ②自己診断テスト 3年生時に実施し、就職活動の準備として学生に自己を客観的に把握させ、自己PR作成や自己の適性を活かした志望業界・職種を選択させる。(大学)
- 結果を前にして、職業(業種、職種)の各人の適性を具体的に論議することができ、被験者の納得度も高い。(大学)
- 活用するためのセミナーを必ず実行している。セミナーを受講することで、自己分析を自分の力で進めることができるようになっている。(大学)
- 本学の場合、専門性の就職が主体であるため、否定されてしまう結果は望まない。そのため、結果からこんな一面があるということを理解させたうえで指導に役だてられるようにしている。また、専門外の就職に就きたい学生には、結果を指導に役立てている。(短大)

◆ 効果がある(4件の記述あり)

- 学生自身の行動特性を理解し、意識向上にある程度の効果はあると考えている。(大学)
- 効果が認められる。(大学)
- 学生自身の自覚を促し、適性を図るのに多少の効果が見込まれる。(大学)
- 専門職就職の場合、実際の試験では実施されないことが多く模擬試験としての効果は低いですが、自分自身を理解し、就職活動をする上では、学生、大学の双方に実施効果が高い。(短大)

◆ 参考程度・疑問(24件の記述あり。以下に一部を紹介)

- ある程度の職業や職種選択の参考にはなるが、その反面、結果に縛られて本当に自身が希望していることなのか、自身に合っている職業選択に繋がっているのか疑問。(大学)
- 検査の結果が全てではないので、参考程度と考える。(大学、短大)
- 検査結果に全面的に依存するのではなく、あくまでも自己理解や職業調査の参考にするためのツールとして考えている。(大学)
- ①検査をするだけで結果の活用・解説、それに基づいた支援の確立がなければ無意味。
- ②検査結果により視野が狭くなったり、自己規定してしまうデメリットもある。(大学)
- 時間をもう少しかけることができれば効果があがるのではないかと考えている(実際には時間が無い)。
- 学生の興味・関心を広げることができると考えている。(大学)
- 自己分析、自己理解をし、就活の準備となると考えているが、結果をもとに個別に対応しないと効果はなかなか現れない。(大学)
- 検査結果を活用した指導体制が確立できていない。(大学)
- フォローの仕方によって効果が決まる。(大学)
- 今のテストより客観性のあるものがほしい。(大学)
- 各学年ごとの経年変化についての検証ができればと思う。(大学)

◆ コスト等の問題で導入できない(5件の記述あり)

- 検査のために要する費用が一人あたり数千円するため信頼性の高い検査がなかなか導入できない。それなりの効果がありそうなので、全学年に実施したいが、難しい。(大学)
- 積極的に実施したいがコストが高くて実施できない。効果は大いにあると思います。(大学)
- 公的機関のテストが安いので利用しているが、検査結果の理解しやすさでは民間が優れていると思うが値段が高い。(大学)
- 外部機関の検査は費用が高額で学生の負担が大きい。もっと安価で実施できるとよい。マイナビ等の無料適職診断を利用させている。(大学、専門学校)
- 実施効果はあると思うが、予算300万以上増は難しい。(専門学校)

◆ 特になし(101件の記述あり)

(3) 職業情報等への今後の期待について (第5章関連資料)

通番	領域	内容	自由記述	学校種
1	内容面	新しい情報	現状に合った正確な最新情報を提供してほしい。	大学
2	内容面	新しい情報	正確でリアルタイムな更新がされること。	大学
3	内容面	新しい情報	業界と職種の最新動向に関する書籍を期待する。	高専
4	内容面	新しい情報	新しい情報を常に取り込んでほしい。	大学
5	内容面	新しい情報	常に新しい情報であることと公平性	短大
6	内容面	新しい情報	新しい情報の提供	専門学校
7	内容面	正確な情報	正確な情報と事実	大学
8	内容面	正確な情報	信頼性のある正確な内容であること。	大学
9	内容面	正確な情報	正確で最新の情報	大学
10	内容面	正確な情報	うわさなどの不確定情報がないこと。	大学
11	内容面	正確な情報	正確で具体的な内容を提供してほしい。	短大
12	内容面	公平・中立な情報	営利が優先にならない様に、自浄努力を忘れずに運営していただきたい。	大学
13	内容面	公平・中立な情報	より客観的な情報提供	大学
14	内容面	公平・中立な情報	仕方のないことではあるが、特にインターネットサイトなどは、広告媒体的要素が強いため、客観的かつ正確な情報のみを伝えるツールがあると良い。	大学
15	内容面	公平・中立な情報	公平性・信頼性が高い情報がひとつにまとまっていてアクセスしやすい状況を希望します。	大学
16	内容面	公平・中立な情報	スポンサーのついでに「広告」が幅をきかせている。又、入職の「ルート」が存在するにも関わらず、学生には「公平」の観念から示せていない。より実態を知らせることが、学生の迷いを削減する。	大学
17	内容面	具体的な仕事内容	具体的にどのような仕事をするのか、どういった人材が望ましいのか、などの情報を記載してもらいたい。	大学
18	内容面	具体的な仕事内容	“入社したらどんな仕事をするのか”、“どんなやりがいがあるのか”等を学生が具体的にイメージしやすい内容。	大学
19	内容面	具体的な仕事内容	学生自身が自分が働いている姿をイメージでき、合わせてそれをしている時の自分が抱く感情を自覚できるレベルのものを期待する。	大学
20	内容面	具体的な仕事内容	マニュアル化された対策本やデータではなく、より具体的な働き方や社会の厳しさが学生に伝わるような内容が良い。	大学
21	内容面	具体的な仕事内容	社員の仕事内容と一日のタイムテーブルなどの情報	短大
22	内容面	具体的な仕事内容	インターネットサイトに特に期待することはない。期待するのは、「募集する側がその仕事に関する情報を分かりやすく学生に示してほしい」ということ。仕事内容がイメージしにくい職種名も多く、学生が自分の希望と一致させるのが困難である。	短大
23	内容面	興味が広がるように	既存知識にとどまらず、未知の分野(業界)への興味が広げられること。	大学
24	内容面	興味が広がるように	知らない職種にも興味が広がるような内容	大学
25	内容面	興味が広がるように	詳細になればなる程、学生がイメージを固め、それにとらわれてしまい、仕事の幅を広げられなくなるので、その弊害をなくすこと。	大学
26	内容面	視覚的情報	幾千万もの企業の情報について、関わる動画や写真等を常に最新のものに更新していくのは非常に困難であり、また撮影の仕方によっては実情よりも良く見せるようなモノも出てくる可能性があるが、視覚から入るインパクトはやはり大きいと考えられるため、そういった情報を多く取り扱う就活サイトや書籍があっても良いのではないかと感じている。	大学
27	内容面	視覚的情報	図やイラストを多く用いた視覚的なわかりやすさ	大学
28	内容面	視覚的情報	業種別、職種別のインターネット配信(説明、動画)	大学
29	内容面	視覚的情報	より具体的な仕事内容が視覚的に(映像等)見せられることが望ましい。	専門学校
30	内容面	地方、中小の情報	地域に密着した情報の提供(首都圏中心の媒体が多過ぎる)。	大学
31	内容面	地方、中小の情報	一部の大手有名企業のみで学生の興味が集中しないような工夫	大学
32	内容面	地方、中小の情報	多くの学生が参考にするのは無料の大手就職サイトになるが、情報が表面的で画一的にならざるを得ない。中小企業情報をもっとあればいいと思う。	大学
33	内容面	地方、中小の情報	上場していない企業等の財務情報の公表	大学
34	内容面	地方、中小の情報	中堅・中小企業にも目を向けた職業情報	大学
35	内容面	地方、中小の情報	首都圏の情報が多いので、地方の情報も多くあればよいと思う	短大
36	内容面	地方、中小の情報	・見やすい画面構成・地方の就職情報の充実	短大
37	内容面	地方、中小の情報	就職サイトに載る情報は大企業などある程度の規模以上のところのものがほとんどなので、もっと幅広く、小さい規模の企業情報も知ることができたらと思います。	短大

(3) 職業情報等への今後の期待について (第5章関連資料) <続き>

38	内容面	実情やマイナス面	情報サイトの企業情報については、実際と異なる(給与・就業時間)内容が掲載されていることが散見される。情報の正確性を相保するための掲載ルールを設けていただきたい。	大学
39	内容面	実情やマイナス面	有料の書籍やインターネットの一部において、100%その会社の真実の姿を公開していないものが散見されるが、極力正確な会社情報を提出してほしい。	大学
40	内容面	実情やマイナス面	企業への定着率や業務の実情がわかる情報を出してほしい。	大学
41	内容面	実情やマイナス面	「ブラック企業の見分け方」といった情報が有益と思われるが、不確かでいい加減な情報を基に流されても困るので、真偽をきちんと確認して情報を提供してほしい。	大学
42	内容面	実情やマイナス面	ブラック企業の実名公表(掲載)・平均勤続年数の掲載	大学
43	内容面	実情やマイナス面	離職率の開示	大学
44	内容面	実情やマイナス面	職種や各企業のプラスの情報を得る手段はあるが、大変さなどマイナスの情報は得られづらい。	大学
45	内容面	実情やマイナス面	ミスマッチ、ブラック企業チェックの為に正確、信頼性	大学
46	内容面	実情やマイナス面	利点のみだけでなく、現状も伝える。	短大
47	内容面	実情やマイナス面	企業への定着率や業務の実情が具体的にわかる情報を出してほしい。	短大
48	内容面	実情やマイナス面	「ブラック企業の見分け方」といった情報が有益と思われるが、不確かでいい加減な情報を基に流されても困るので、真偽をきちんと確認して情報を提供してほしい。	短大
49	内容面	実情やマイナス面	・ブラック企業の実名公表(掲載)・平均勤続年数の掲載	短大
50	内容面	実情やマイナス面	3年以内の離職率や有給休暇の取得の状況といった情報も充実すると参考になるもの考える。	短大
51	内容面	実情やマイナス面	離職率や具体的な業務内容についてより詳しく掲載すべきだと思います(企業入社後のミスマッチを防ぐため)	短大
52	内容面	実情やマイナス面	良いところのみでなく、悪いところも提示してほしい。マニュアル的な内容はやめてほしい。	高専
53	内容面	実情やマイナス面	応募者の母集団を増やそうとするだけでなく、どのような人材を採用したいのか、明確に表示して情報提供すること。	高専
54	内容面	実情やマイナス面	ブラック企業の掲載	専門学校
55	内容面	生の声や体験談	その職場でもっとも多い職種・現場で働いている人の生の声が聴けること。学生インタビューなどの掲載。	大学
56	内容面	生の声や体験談	丁寧な解説に加えて、実際にその職業についての先輩の参考コメント等が複数見れる形のものであれば望ましい。	大学
57	内容面	生の声や体験談	実際に仕事に従事する人の声にアクセスできるツール	大学
58	内容面	生の声や体験談	実際に働いているOB・OGの先輩による体験談や仕事紹介	大学
59	内容面	生の声や体験談	机上の空論のごとき職業情報は不要。現場で働いている人の「生の情報」が必要。	短大
60	内容面	生の声や体験談	実際にその職業に就いている先輩の体験談(良いこと、大変な事含め)の紹介。その職業に就くために「求められる能力」についての客観的な情報。	短大
61	内容面	就業後の情報	実際に就業した際に感じる就職情報とのギャップを明確にして頂きたい。	大学
62	内容面	就業後の情報	就職後の良いことばかりを掲載するのではなく、実際に苦労して乗り越えた、エピソードも載せてほしい。	大学
63	内容面	就業後の情報	就職後のキャリアアップについてより具体的に例が示されているとよい。	短大
64	内容面	就業後の情報	就職サイトは就職するための情報に偏っている。キャリアという観点で就職後のステップアップや働き方についても何らかの形でわかりやすい情報があると有難い。その会社に入ったらどうなるか。どういうステップを歩んでいくか。	専門学校
65	内容面	学校、学部に関わらない	薬学部に合う情報をもっとほしい。	大学
66	内容面	学校、学部に関わらない	工学部卒業者の就職先となる職場についての詳細な情報が紹介された内容を期待する。	大学
67	内容面	学校、学部に関わらない	本学の就職先が特定の業種、職種に限定されているため、このような情報を利用する学生はほとんどいない。	短大
68	内容面	学校、学部に関わらない	専門学校生(ある程度進路を定めて進学した者)が閲覧して将来ビジョンがわかりやすくなるサイト。	専門学校
69	内容面	学校、学部に関わらない	きもの専門学校なので、専門職に対する情報が少ないのが現状である。	専門学校
70	内容面	前向きになれる	学生が自分の強みを理解し、自己効力感を高め、社会に出ることの不安を解消していくこと。	大学
71	内容面	前向きになれる	学生が就職に対して前向きになれるような情報、働くことのやりがい、社会人は学生とは違う楽しさがあるという本	専門学校

(3) 職業情報等への今後の期待について (第5章関連資料) <続き>

72	内容面	網羅性	多くの職種を網羅しており、かつ学生の閲覧が容易である。	大学
73	内容面	求められる能力	就職活動のノウハウは必要であるが、社会人、企業人として求められるスキル及び成功事例、失敗事例の掲載を期待したい。	大学
74	内容面	就社でなく就職意識	特定の企業への就社意識ではなく、就業・就職意識が高まるような情報提供を望みます。	大学
75	内容面	就社でなく就職意識	特定の企業への就社意識ではなく、就業・就職意識が高まるような情報提供を望みます。	短大
76	利用面	見やすさ使いやすさ	情報が多過ぎて、学生自身で整理できていないため。もっとピンポイントで検索ができる、抽出条件の設定。	大学
77	利用面	見やすさ使いやすさ	情報量の多さに困惑している学生が見受けられる。情報の整理がもっと簡易にできるサイトが必要。	大学
78	利用面	見やすさ使いやすさ	使い易いこと、解り易いこと	大学
79	利用面	見やすさ使いやすさ	学生の多くが就職希望する総合職の情報が一目で分かるようなものがあると良い。	大学
80	利用面	見やすさ使いやすさ	見易さ	大学
81	利用面	見やすさ使いやすさ	検索がしやすいこと。内容が具体的でイメージしやすいこと。	大学
82	利用面	見やすさ使いやすさ	就職ナビの使いやすさ	大学
83	利用面	見やすさ使いやすさ	書籍・インターネットサイト共に、全体構成として、簡潔・明瞭・分かり易い事を期待します。	大学
84	利用面	見やすさ使いやすさ	検索がしやすいこと。内容が具体的でイメージしやすいこと。	短大
85	利用面	見やすさ使いやすさ	検索のしやすさ、情報量	短大
86	利用面	無料	無料で利用できる環境	大学
87	利用面	無料	学生が無料で利用できること。偏りが無い情報であること。	大学
88	利用面	無料	無料で各学校への送付	短大
89	利用面	無料	無料で閲覧できるもの	短大
90	利用面	無料	無料で受検できる、適性検査、SPIのサイト一覧	高専
91	利用面	自由に閲覧できる	学生が自由にネットで閲覧できるものが望ましい	大学
92	利用面	自由に閲覧できる	学生が自由に閲覧できるものが良いと思います。	短大
93	設置者	キャリアマトリックス	キャリアマトリックスのような公平・中立的な情報提供サイトの充実・復活	大学
94	設置者	キャリアマトリックス	キャリアマトリックスの復活をぜひお願いします。	大学
95	設置者	キャリアマトリックス	キャリアマトリックスの復活	大学
96	設置者	キャリアマトリックス	キャリアマトリックスのように無料で、公平、中立、信頼性があり、情報量が多いサイトを期待します。	大学
97	設置者	キャリアマトリックス	キャリアマトリックスの復活	大学
98	設置者	キャリアマトリックス	キャリアマトリックスの復活を期待する。	大学
99	設置者	キャリアマトリックス	以前にあったキャリアマトリックスのようなサイトが欲しい。	短大
100	設置者	公的なサイト	厚生労働省などの公的な機関が職業分類にそって、視覚的な情報を含めた職業情報を無料で閲覧できるインターネットサイトを開設してほしい。	大学
101	設置者	公的なサイト	業者が提供する情報は、大企業中心になる傾向がある。また、「職業」というより、「企業」という切り口での情報提供になりがちだと感じる。より中立的な立場の機関が職業情報を提供できることを期待します。	大学
102	設置者	公的なサイト	インターネットサイトは特に信頼できるものが少ない。厚労省(ハローワーク)で学生の為の就活ホームページが有り安心して活用出来るものが欲しい。	大学
103	設置者	公的なサイト	無料で、最新の職業情報が閲覧できるサイトの出現(公のもの)	大学
104	その他	情報リテラシー	インターネットからの情報を学生が、主体的に考え、意見を発信できるような仕組みができることに期待します。併せて、収集した情報を適切に活用できる技術を学生が修得できるようになればさらによいと思います。	大学
105	その他	情報リテラシー	インターネットは材料のひとつとして、うのみにしないように指導しています。	大学
106	その他	情報リテラシー	現在、職業情報や就職に関する情報は書籍でもインターネットでも非常に多く見受けられ、氾濫していると言っても過言ではない。こうした状況の中、独自性を有したものの、情報の取捨選択のテクニック等を示すなど、個々の学生に最適化するための、そして正しい方向性に導くための情報が提供されることが良いと思います。	大学
107	その他	その他	3年になってからではなく、低学年の時から大学生活を大切に過ごす重要性を理解させ、本やサイトも就職につながるような情報を発信できるものがあつたらと思う。	大学
108	その他	その他	大学での学びと職業のマッチング解説、説明をより詳しくして欲しい。	大学

(3) 職業情報等への今後の期待について (第5章関連資料) <続き>

109	その他	その他	社会人として求められる能力がいろいろ出されてはいるものの、何を信頼し、どのような能力を高めるかは結局学生個人にゆだねられてしまう。学生が就活に主体的に取り組めるような手助けになる書籍やインターネットが多くなることを期待します。	大学
110	その他	その他	応募締切日について、企業のホームページに記載されている内容と、直接採用担当部署に電話をして確認した内容が異なり、学生が混乱したことがあった。情報の統一性は高い方が望ましい。	大学
111	その他	その他	リクナビ等の当該企業から発信される就職情報ではなく、業界ごとにまとめられた職業情報を活用したい。	大学
112	その他	その他	・職業情報に関しては網羅性を高めて欲しい。現在は1万社程度。・現在ではこのサイトを使ってエントリーし、自己PR、志望動機等を入力させ、1次の合否を判定している企業もあるようだが、機械的な判定には違和感をおぼえる。	大学
113	その他	その他	一部分だけをとりあげるとはやめてほしい(その一部分だけが正しい情報と思ってしまうため)	大学
114	その他	その他	「ワンクリックエントリー(説明会も)」に代表される「手軽すぎる」機能の廃止	大学
115	その他	その他	会社の統一	大学
116	その他	その他	就職情報のおすすめ一覧があるとありがたい	大学
117	その他	その他	その企業の一般的な情報だけでなく、マーケットでの優位性(他社との差別化含む)マーケットの説明(競合会社名含む)があると、会社選択や志望動機の自己認識に役立つと思う。	大学
118	その他	その他	日経テレコン21は使用料が高額なので、利用しやすいような価格にしてほしい。	大学
119	その他	その他	参考にしますが、期待はしていません。	大学
120	その他	その他	広く周知願いたい	大学
121	その他	その他	このような情報サイトは就職情報を収集する能力のある学生が利用している。収集能力のない学生に対して実際の人材紹介会社等に所属するリクルーターとの個別指導との連動することを期待する。	短大
122	その他	その他	(特にインターネットの場合)インターネットの情報と採用担当者の話の内容が異なる場合があり、それにより説明会や試験を逃してしまうケースがある。可能な限り瞬時に情報が反映されるようなインターネットサイトがあると幸いである。	短大
123	その他	その他	就職支援の場において専門職に対する情報が少ない。一般的に大学生を対象にした総合職向けの情報が多く、具体性の欠けるものが多い。	専門学校
124	その他	その他	最近の学生を見ていると職業情報というよりも、普段の生活や学校生活、課外活動などを通して自分の役割や、場面場面に応じた立ち振る舞いを理解させたり、経験的に身に付けることが必要と感じます。その上で、それぞれの職業の社会の中での役割や役立ち方を職業情報として提供して、自分自身の経験と照らして理解できるのではないのでしょうか。	専門学校
125	その他	その他	学歴情報	専門学校

(4) キャリア教育関連授業への関わりがある場合の具体的内容(第6章関連資料)

図表 6-9 「キャリア教育への関わり:「ある」と回答した者の具体的な関わり方の内容(自由記述)の詳細

キャリア教育への関わり:「ある」と回答した者の具体的な関わり方の内容(自由記述)	大学	短大	高专	専門学校
◆ キャリア教育関係の講義を担当・授業へ参加				
1. キャリアセンターの専任教員による授業の企画・実施	3			
2. センターの中にキャリア教育を担当する専任教員がいて、専らキャリア教育を行っている。	2			
3. キャリアセンター教員が主体となり、授業を行っている。	1			
4. キャリアセンター専任教員が「キャリアデザイン」選択2単位「大学入門科目」の必修2単位(16コマ中2コマ)を担当している。	1			
5. 就職部のメンバーは常に教員がほとんどを占める。そのメンバーが基礎演習(就職指導)などの授業を組み立て実施している。				1
6. 専任の教員が授業を実施	1			
7. センター教員によるキャリア講義実施	1			
8. キャリアセンターに教員を配置し、共通キャリア教育を実施している	1			
9. キャリア科目を担当する教員が、キャリアサポートセンター員を兼務している。	1			
10. 授業実施(キャリアセンター教員)	1			
11. 就職支援室の専任教員が上記授業を行っている	1			
12. キャリアセンター所属の教員がキャリア教育の授業を担当している	1	1		
13. 教員が正課の講義をしている			1	
14. 2年次担任がセンター構成員として所属し、「教養演習」(キャリアアップ授業)を担当している。			1	
15. キャリアカウンセラーがキャリア科目の授業の担当教員を兼務している	1	1		
16. キャリアセンター部長が授業を行っている	1			
17. 科目担当者はキャリアセンター長。授業内容は、担当職員と相談しながら計画。実施を職員がサポート。	1			
18. 本学には、キャリアサポートオフィスがあり、オフィス長が就職情報室の情報を使用し、正課授業「キャリアデザイン」を担当している。また、全学のキャリア関連科目群の設定を学生課と連携をとりながら計画している。	1			
19. 就職スタッフが実際に授業を行いコーディネートしている			1	
20. 授業はキャリアセンタースタッフで行っている			1	
21. キャリアセンターの職員がキャリア関係科目の講師も兼任している	1			
22. スタッフが関連科目担当者(専任教員)である	1			
23. スタッフが「キャリアデザイン」の授業を担当している(後期)				1
24. キャリア支援担当部署のスタッフが授業の講師を務めたり授業構成の検討を行っている	1			
25. ゼミの時間を利用して、キャリアサポート課職員によるキャリア教育をしている。	1			
26. 教育実地研究Ⅱの一部をキャリアコーディネータが非常勤講師として授業を行っている。	1			
27. 所属のスタッフが授業の講師を担当	1			
28. 講義を受け持っている	2	1		
29. 科目によってはキャリアセンターが担当している	1			
30. 授業に講師として参加 外部講師紹介等			1	
31. 授業の実施、講師の紹介	1	1		
32. 授業を担当	2	2	1	3
33. キャリアデザインの授業を受け持つ				1
34. キャリア教育授業を授業担当者として協力して実施している	1			
35. 「キャリアプランニング」1年後期開講授業			1	
36. キャリア科目「仕事と人生」の担当	1	1		
37. キャリア開発基礎講座Ⅰ～Ⅲの開講(運営全般)インターンシップ・スキル開発講座の開講(運営全般)	1			
38. 「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」の開講・実施、各教育組織におけるCDP(Career Development Program)、フレッシュマンセミナー	1			
39. 情報科学部では3科目のキャリア科目を開講し、授業担当教員と連携し、運営方針・予算等に携わっている	1			
40. 選択科目に「インターンシップの」、ホームルームにおいてキャリア教育を実施している。			1	
41. 「就職指導講座」「業界研究」等必須科目の講師。				1
42. 1、2年生を対象としたライフ・キャリアデザインの授業	1			
43. 工学部「就業力の育成」と教養科目「職業とキャリア開発」の一部を担当	1			
44. キャリア支援Ⅰ～Ⅳ(必須)をキャリアセンター(就職課)が担当している。	1			
45. キャリアセンターでは全学共通の教育科目(キャリア形成科目)において、低年次生から学生個々の「気づき」を目標にキャリア教育を選択必須科目として展開している。	1			

(4) キャリア教育関連授業への関わりがある場合の具体的内容(第6章関連資料)〈続き〉

46	定期的なスペシャリスト養成講座という授業を担当している。				2
47	必修科目「キャリアセミナー」の企画・運営	1			
48	通常授業内に就職講座という授業を開講しており、担任とキャリアセンターが連携して授業で就職指導を行なっている。				1
49	就職講座				1
50	就職部から学生に向けての授業(ビジネスマナー)を実施している				1
51	授業態度(マナー)の指導について授業補助員(T.A)として毎回参加している	1			
52	キャリア教育センターが軸になって講座や講演会を実施している			1	
53	キャリア授業 主体的に実施している	1			
54	キャリアセンター主導にて実施	1			
55	就職に関する授業必修年間30コマを当センターで対応		1		
56	授業コマ数の約半分の時間を就職ガイダンスとして実施している。		1		
57	前期、後期それぞれ15コマ(2単位)開講している。	1			
58	半期15コマのキャリアガイダンスを実施して単位を出している		1		
59	15回のうち3分の1に関して授業実施		1		
60	一部、授業を担当している		2		1
61	週1時間のクラスを設定				1
62	授業に参加、出席状況の把握、資料作成など	2	1		
63	毎週、数回実施される授業に参加している				1
	小計	45	21	3	15
◆ キャリア教育の授業計画(カリキュラム、シラバス作成)を担当					
1	カリキュラムの策定等。	1			
2	カリキュラムの検討・講師	1			
3	カリキュラムの構築	1			
4	カリキュラムを教員と一緒に考える。キャリアデザインクラスの担当スタッフをつけ、事務局からの連絡等、教員と密接に関わる。	1			
5	カリキュラム企画も含め積極的に関わっている。	1			
6	カリキュラム作成や事務作業	2			
7	授業計画、授業担当	1			
8	授業計画を立案している	1			
9	シラバス作成、予算申請、授業実施、発注、評価	1	1		
10	シラバスの内容、目的、ワークの担当	1			1
11	シラバスの作成、講師の選定、依頼	2	1		
12	シラバス作成、講師選定、授業運営全般	1	1		
13	シラバス作成段階の協議、授業運営のサポート	1			
14	シラバス策定、講師依頼、出欠席把握	1			
15	キャリアセンターが運営しているキャリア形成科目(必修科目・2単位)がある。	1			
16	内容の検討	1			
17	内容検討、講師選択	1			
18	企画・運営		1		
19	企画・運営全てにおいて中心的役割を果たしている	1			
20	企画・運営等ほとんど関与		1		
21	企画・運営・委託業者の手配等	1			
22	企画・実施すべて委員として担当している。	1			
23	企画・立案・実施		1		
24	企画と一部担当	1			
25	キャリアデザイン/I、IIの教科書作成(テキスト)	1			
26	キャリアデザインのシラバス及び講師手配、自らも講義	1			
27	キャリアセンターと教員とで、授業内容を決めている。また、授業にキャリアセンター職員も参加している(2コマ担当)		1		
28	キャリア教育科目のコーディネートをしている	1	1		
29	キャリア開発室が企画・運営を行っている。				1
30	中心的・全面的に関わっている	1			
31	プログラム開発及び授業補助等全般に関与している	1			
32	キャリアの授業を必修として就職課が立案、準備等をしている		1		
33	授業内容の決定、企画、運営にいたるまで全般的に関わっている。		1		
34	授業内容の検討・教員の選定	2			
35	3年次に対してはほとんど就職課が主体となって実施している	1			
36	H.22から正課外でプログラムを組み実施。H.26からは拡充して「正課」(3科目～5科目)化の計画。	1			
37	コンテンツ開発から運営まで担う	1			
38	年間指導計画の立案等		1		

(4) キャリア教育関連授業への関わりがある場合の具体的内容(第6章関連資料)〈続き〉

39	授業の計画、実施、単位(成績)判定		1		
40	授業の内容と講師配置の調整等	1			
41	授業科目の開設及び、授業内容の立案、企画し実施している。	1			
42	職員が実質的に企画し授業運営し採点する	1			
43	一般教養の単位認定科目である「インターンシップ」は諸手続きをすべてキャリア支援センターが担当している。また、1年生必修の「実践倫理(キャリアデザイン)」の講義では15回のうち2回をセンター長が担当している。	1			
44	授業の計画から実施まで	1			
45	担当教員とのカリキュラムの共同企画・運営	1			
46	ほとんど全て	1			
47	主体的に運営、実施している	1			
48	実施主体	1			
49	実施内容から考えている		1		
50	主体的責任部署(全てに関わる)	1			
51	プログラムの内容検討や講師にキャリアスタッフが参加しているインターンシップの企画・運営はキャリアセンターが担当している	1			
52	授業カリキュラムの企画、検討。授業資料の準備、ポートフォリオ入力指導、データ取りまとめ	1			
53	新規キャリア科目の企画、開講手続き、講師依頼、授業補助、出席やレポートの管理、等	1			
54	キャリアデザイン授業の推進主体として初期教育との融合を進める。	1			
55	骨子立案、3コマ受持ち	1			
56	授業科目の設定、コーディネート	1			
	小計	49	13	1	1
◆ 授業内容の企画・担当教員との連携・資料作成					
1	担当教員と連携して実施している	1	1		
2	担当教員がシラバス作成時の助言、アドバイス。授業の一部での講話に参加等。	1			
3	担当教員との授業内容の設定や授業自体への参加等	1			
4	担当教員との打ち合わせ。授業内容の一部を反映	1			
5	担当教員と情報共有の機会を設け連携を図っている。	1			
6	担当講師と講義のテーマや内容等を打合せながら進めている	1			
7	教員とともに講義内容に深く関わっている。	1			
8	教員との連携、講義の運営・補助など	1			
9	キャリア教育担当教員との連携・協力・情報共有等	1			
10	キャリア科目の時間割、15週のシラバスを担当教員と連携し、決定。担当教員との成績管理(出欠データ含む)、授業満足度・改善調査等を実施。学生への授業案内。	1			
11	キャリア教育研究開発センターがキャリア形成支援教育科目(19科目)の開講準備物、担当教員の依頼、授業運営のサポートを行っている。	1			
12	細かな内容を委託業者に指示	1			
13	講座内容の立案、協力、実施		1		
14	キャリア教育に係る講演会等の開催準備			1	
15	特別活動の一環でキャリア教育を実施			1	
16	資料の提供	1			
17	利用内容のチェック、立案、評価資料の作成(一部科目に限る)	1			
18	教材の作成、授業ファシリター、ガイダンスの運営		1		
19	キャリア形成科目においてテキスト作成。外部講師依頼、資格取得にかかる実習受付・引率等	1			
20	授業の準備、実施の補助		1		
21	授業の進行(運営)、レポートに記載された要望などのまとめ	1			
22	講義内容等の共通理解を図り、就職支援を推進している。	1			
23	キャリア教育授業は担当教員と連携しながら就職課で企画・運営している。	1			
24	授業計画、授業補助など	1			
25	授業の運営		1		
	小計	19	5	2	0
◆ インターンシップへの協力					
1	「インターンシップ」実施に関わる殆どどのコーディネイトと、企業と学生との間の連絡調整	1			
2	①インターンシップ教科の手続:インターンシップの企業開拓、受入れに関する事務手続き、学生指導等 ②大学と社会系科目の講師として一部を担当	1			
3	4年次「インターンシップ」に関わる「インターンシップ合同企業説明会」の実施			1	
4	インターンシップ		1		
5	インターンシップ、キャリア形成演習Ⅰ(授業科目)	1			
6	インターンシップ、キャリアプランニング、学習基礎	1			
7	インターンシップ、低学年への就職の現状報告	1			
8	インターンシップ受け入れ先の開拓や実施に関する運営など	1			

(4) キャリア教育関連授業への関わりがある場合の具体的内容(第6章関連資料)〈続き〉

9	インターンシップが単位化されており、その実施管理を担当	1			
10	インターンシップ実施に関する事務的業務		1		
11	インターンシップによる単位認定	1			1
12	インターンシップ関連科目について立案と実施	1			
13	インターンシップ授業等で連携している	1			
14	キャリアセンター内にキャリア教育プログラム室を設置。インターンシップ関連科目等正課教育を担っている	1			
15	例えばインターンシップで企業に行く前の事前、事後サポートやマナー、挨拶等の指導を行っています。	1			
16	先方企業担当者との調整や企業の選定	1			
17	正規講義、資格取得、インターンシップでの単位認定	1			
	小計	14	2	1	1
◆ 講師の選定と対応					
1	講師選定、講義の目的、内容の精査	1			
2	外部講師の手配、定期試験実施、評価案作成	1			
3	「キャリアデザイン」の講師手配、資料配布等の授業補佐。	1			
4	企業講師選定・依頼等とりまとめや企画及び内容充実検討上申。		1		
5	講師選定、依頼、資料作成、授業補助など	4	2		1
6	キャリア教育にかかる外部委託業者の選定、依頼、調整、内容の打ち合わせ等		1		
7	先輩の就活体験談、講演者人選と依頼、職種業種研究招聘企業の選考と依頼	1			
8	外部講師との打合せ、マナー関連の講師、体験(学外)活動のセッティング、インターンシップ教育、レポート管理等	1			
9	委託業者による授業のため、大学側の要望を伝え、定期的な報告も受けている。	1			
10	委託業者と講義内容の打合せ・最終決定、など		1		
	小計	10	5	0	1
◆ キャリアガイダンス・就職支援のための説明/学生の支援					
1	学生全員にキャリアガイダンスを年度ごとに実施している				1
2	学科ごとに単独で就職支援を行っている。大学全体で学生個人の就活に関する情報が分かるようになれば良い。	1			
3	キャリアセンターの紹介をする	1			
4	キャリア支援課が中心となりガイダンス取組み	1			
5	個別ガイダンス、面接指導など				1
6	卒業生、企業の紹介。連携。	1			
7	常に全教職員が学生一人ひとりの就職活動を支援している		1		
8	個別相談体制の充実に向けた環境整備	1			
9	学年の担任及び、授業担当で学生とのコミュニケーションは取れている。				1
10	学生就職活動情報連携、授業実習先開拓等	1			
11	PROGテスト実施等	1			
12	SPI課題の準備、就職ガイダンス等	1			
	小計	8	1	0	3
◆ 委員会に参加、メンバーとなっている					
1	常勤職員1名が、就業力育成支援室員となっている	1			
2	科目を策定する委員会の運営	1			
3	教員及びCC職員で構成する「キャリア支援委員会」及び「キャリア教育部会」にて協議している。	1			
4	委員がかかわっている		1		
	小計	3	1	0	0
◆ 就職のための事務手続き/その他					
1	事務局の仕事	1			
2	教職課程なので、正課の授業や実習のほとんどがキャリア教育につながっている	1			
3	職業人である前に人間教育が大切なので全ての講義がキャリア教育に繋がっています。				1
4	幼稚園教諭、保育士養成校であるため、授業やガイダンス、すべてがキャリア教育だと思う		1		
5	産学連携				1
	小計	2	1	0	2
	合計	150	49	7	23

2. 調査票

この調査はWEB ページでも回答いただけます。
URL https:// * * *

WEB ページでご回答いただく場合は、
下記のID でログインしてください。



キャリアガイダンスと就職支援の方法に関する調査

この調査は、大学・短大・高等専門学校・専門学校におけるキャリアガイダンスと就職支援のための具体的な方法についてお聞きして、学生の職業選択や就職指導の支援方法の検討や内容の充実をはかるための資料として役立つことを目的としています。回答にあたっては、ご担当者の個人的なお考えで答えていただいて結構です。お忙しい折りとはいえませんが、何卒ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。なお、ご回答いただいた内容は、すべて統計的に処理され、個別の回答が外部に出ることは決してありません。

回答は、本調査票への書き込み（郵送）でも、WEB でも可能です。

(URL https:// * * *)

○調査企画者：独立行政法人 労働政策研究・研修機構 キャリア支援部門 (* * *)

○調査委託機関（問い合わせ先）：株式会社 * * *

TEL : * * * FAX : * * *

1. 貴学の属性とご回答者について

1-1 貴学の属性について：以下の該当の番号に○をつけてください。

a. 学校区分

① 大学	② 短期大学	③ 高等専門学校	④ 専門学校
------	--------	----------	--------

b. 設置者

① 国立	② 公立	③ 私立
------	------	------

c. 設立年

① 1959 年まで	② 1960 年代	③ 1970 年代	④ 1980 年代	⑤ 1990 年代	⑥ 2000 年以降
------------	-----------	-----------	-----------	-----------	------------

d. 本部所在地

都道府県名

e. 規模

総学生数 約 名
(大学の場合大学院を除く)

f. 貴学における昨年度の最終学年の学生の進路状況（判明している場合には、およその割合をご記入下さい）。

① 就職者の割合	...	約	%
② 進学者の割合	...	約	%
③ 一時的な仕事に就いた者の割合	...	約	%
④ 上記以外(進学も仕事もしない)の者の割合	...	約	%
⑤ 不明・その他	...	約	%
⑥ 合計	...	100	%

1-2 ご回答者について：ご回答者のご所属部署、職掌をご記入ください。

ご所属部署：

職掌：

2. 具体的な就職支援の内容について

2-1-1 【集团セミナーの実施内容と外部の専門家等の活用】

- ◆下記のセミナーの内容について、貴学の「就職支援」において、毎年実施しているものに○をつけてください（○はいくつでも）。また、主に対象としている実施学年と時期を数字で記入してください。
- ◆また、それぞれについて、外部の専門家等の支援やサービスを活用している場合には、該当の欄に○をつけてください（○はいくつでも）。

集团セミナーの内容	毎年実施しているもの (○はいくつでも)	主に対象としている実施学年 と時期(数字で)		左記に○がついた内容の実施に関して、外部の専門家等の支援やサービスを活用している場合には、該当欄に○をつけてください（○はいくつでも）。			
				①直接依頼している講師・専門家	②委託業者	③ハローワーク職員	④その他
(1) 就職ガイダンス・就活の進め方		年次	月頃				
(2) 自己理解・自己分析 (職業適性検査の実施等を含む)		年次	月頃				
(3) 職業に関する情報提供、業界・企業情報提供、企業人講演会・企業見学会の開催		年次	月頃				
(4) エントリーシート・応募書類の書き方		年次	月頃				
(5) 就職試験(筆記・WEBテスト)対策講座		年次	月頃				
(6) 面接訓練		年次	月頃				
(7) ビジネスマナー講座		年次	月頃				
(8) 働くことのルール等に関する情報提供		年次	月頃				
(9) 内定者・卒業生の発表会や交流会		年次	月頃				
(10) 保護者への情報提供		年次	月頃				
(11) インターンシップに関する情報提供		年次	月頃				
(12) その他(具体的に：)		年次	月頃				

2-1-2 <A> 【個別相談の内容や対象者別の支援】

- ◆貴学の「就職支援」において特に丁寧・慎重な対応を心がけているものと対応が難しいと感じるものに○をつけてください（○はいくつでも）。

	個別相談の内容・対象者別の支援	特に丁寧・慎重な対応を心がけているもの (○はいくつでも)	対応が難しいと感じるもの (○はいくつでも)
内容	(1) 就活の進め方に関する相談		
	(2) 自己理解・自己分析の相談（職業適性検査の実施等を含む）		
	(3) 過去の経験の棚卸し、振り返り等に関する相談		
	(4) 職業に関する解説や情報提供と相談		
	(5) 業界・企業に関する情報提供（求人情報の提供を含む）と相談		
	(6) インターンシップに関する指導・相談		
	(7) エントリーシート・応募書類の書き方の指導・相談		
	(8) 就職試験（筆記・WEBテスト）等の指導・相談		
	(9) ビジネスマナー、面接の指導・相談		
	(10) 将来のキャリア設計の相談		
	(11) 学校での履修に関する相談		
	(12) 資格取得に関する相談		
	(13) 人間関係についての相談		
	(14) 個人生活、家族面の相談		
	(15) メンタルヘルスに関する相談		
対象者別の支援	(16) 未内定者に対する相談		
	(17) 一般学生と同じ流れでの就活が難しいと思われる人の相談		
	(18) 内定者へのフォロー		
	(19) 卒業生への情報提供と相談		
	(20) 各種就職支援サービスを利用しない学生への働きかけ（呼び出し、電話等）		
	(21) その他（具体的に： ）		

2-1-2 【個別相談に関する外部の専門家等による支援やサービスの活用状況】

- ①上記の個別相談の実施にあたって、外部の専門家等による支援やサービスを活用していますか。どちらかに○をつけてください。

1 活用している	2 活用していない
----------	-----------

②上記の①で「1 活用している」を選ばれた方のみ、お答えください。

下記の表について、活用している専門家等に○をつけ（いくつでも）、どのような内容について活用しているのかを具体的にご記入ください。

専門家等	活用している場合に○	どのような内容について活用しているか（記述）
① 直接依頼している講師・専門家		
② 委託している業者		
③ ハローワーク職員		
④ その他		

2-1-3 【PC、情報媒体等の活用】

下記のPC、情報媒体を使った情報提供について、貴学の就職支援で実際に推奨・活用しているもの、今後良いものがあれば活用したいと思うものに、いくつでも○をつけてください。

また、実際に実施している場合は、使用している媒体について、○をつけてください（○はいくつでも）。

PC・情報媒体を使った情報提供	実際に推奨・活用しているもの (○はいくつでも)	良いものがあれば活用したいと思うもの (○はいくつでも)	使用している媒体 (「実際に推奨・活用しているもの」に○をつけた場合に回答) (○はいくつでも)				
			①PCソフト・DVD・CD	②一般のWebサイト	③学校独自のWebサイト	④書籍・雑誌・紙の資料	⑤その他
(1) 自分の適性を調べる							
(2) 職業の世界を調べる							
(3) 適性を調べながら職業について学ぶ							
(4) 業界・企業情報、求人情報を調べる							
(5) 就職活動のための各種対策							

2-2 就職支援に関する次の記述について、貴学はどれにあてはまりますか。以下の①～⑦についてそれぞれあてはまる番号に○をつけてください（○はそれぞれ1つ）。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
① 支援メニューは、毎年、見直して更新している	1	2	3	4	5
② キャリアコンサルタント等の専門的な資格を有する常勤職員がいる	1	2	3	4	5
③ 職業適性検査等を実施し、解釈できる常勤職員がいる	1	2	3	4	5
④ 就職課・キャリアセンターの運営に関して教員が積極的に関与している	1	2	3	4	5
⑤ 就職支援に関わる職員が専門性を高めること（例：キャリアコンサルタント等の資格取得）に対し、学校側が積極的に支援している	1	2	3	4	5
⑥ 最近、就職支援の企画・実務に関して、学校外への業務委託の割合が高まっている	1	2	3	4	5
⑦ 通常の就職支援がしにくい学生には、他の専門機関へのリファーを極力せず、就職課・キャリアセンターで就職できるまで面倒をみる方針である	1	2	3	4	5

2-3 過去3～5年間の、貴学の学生全体の実態や意識の変化等について、最も近いと思われる番号に○を1つつけてください（○はそれぞれ1つ）。

学生全体の実態や意識	変化の様子						
① 授業に対する態度や学習意欲	良くなった←	1	2	3	4	5	→悪くなった
② 将来のキャリア設計に対する意識	高くなった←	1	2	3	4	5	→低くなった
③ 資格取得や講座受講に対する積極性	高くなった←	1	2	3	4	5	→低くなった
④ 就職支援サービス全体への学生の参加率	高くなった←	1	2	3	4	5	→低くなった
⑤ 最終学年において進路が未決定の人の割合	減った←	1	2	3	4	5	→増えた
⑥ 通常の就職活動が困難と思われる学生の割合	減った←	1	2	3	4	5	→増えた
⑦ 退学者の割合	減った←	1	2	3	4	5	→増えた

2-4 今後、就職課またはキャリアセンターとして行なってみたい事業等があれば自由にお書きください。

（自由記述）

次ページからは、キャリアガイダンスの基本的な流れである「①適性・個性の理解→②仕事や職業についての理解→③求人への選択」についてお聞きします。

(2) 貴学で実施している具体的な検査名、実施の時期、対象学年、実施形態、実施者をご回答ください。

※対象学年とは、参加者を募集するときに対象とする学年のことです。

※実施形態で、「集団」とはセミナーや講習会での実施、「個別」は一人ずつでの実施のことです。

※実施者で採点サービスのみ業者委託している場合は、「教職員／委託業者」の両方に○をつけてください。

検査名 (4つまで)	実施時期 (時期が決まっている場合は数字を記入)	対象学年 (学年が決まっている場合は数字を記入)	実施形態 (該当のものに○)	実施者 (該当のものに○)
①	月頃／不定期	年次／ 学年不問	集団 / 個別	教職員／委託業者／その他
②	月頃／不定期	年次／ 学年不問	集団 / 個別	教職員／委託業者／その他
③	月頃／不定期	年次／ 学年不問	集団 / 個別	教職員／委託業者／その他
④	月頃／不定期	年次／ 学年不問	集団 / 個別	教職員／委託業者／その他

(3) 現在、使用している検査のメリットについて、以下の①～⑫の各項目のあてはまる番号1つに○をつけてください (○はそれぞれ1つ)。

※複数の検査を実施なさっている場合には、受検者人数が最も多い検査についてご回答ください。

メリット	あてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
① 内容がわかりやすい	1	2	3	4
② 詳しい結果が得られる	1	2	3	4
③ 結果の信頼性が高い	1	2	3	4
④ 使いやすい	1	2	3	4
⑤ 実施の方法が簡単	1	2	3	4
⑥ 実施時間が短くてすむ	1	2	3	4
⑦ 学生が興味をもって取り組める	1	2	3	4
⑧ 学生自身が採点できる	1	2	3	4
⑨ 業者に実施、採点、結果の解説を任せられる	1	2	3	4
⑩ 大手の業者が作っているので安心	1	2	3	4
⑪ 公的機関が作っているので安心	1	2	3	4
⑫ 実施のコスト (検査用紙代など) が安い	1	2	3	4

(4) 就職支援のために検査を実施することの効果は、どのようにお考えでしょうか。自由にお書き下さい。

(自由記述)

4. 学生の自己理解、就職支援のための検査のニーズについて

★以下は、検査実施の有無にかかわらず、全員の方にお尋ねします。

4-1 学生自身の自己理解や就職支援に役立つと思われる検査、ツールとしてどのようなものが考えられますか。

(1) 役立つと思われる検査の内容（それぞれ、あてはまる番号に○を1つつけてください）

検査の内容	役立つ	まあ役立つ	どちらとも いえない	あまり役立 たない	役立たない
① 基礎的な職業能力を測る検査（言語能力、数理能力など）	1	2	3	4	5
② 職業興味を測る検査	1	2	3	4	5
③ 就職への準備度を測る検査	1	2	3	4	5
④ 職務遂行への自信度を測る検査	1	2	3	4	5
⑤ パソコン、語学力などの具体的なスキルを測定する検査	1	2	3	4	5
⑥ 性格特性を測る検査	1	2	3	4	5

(2) 上記の他に、学生の自己理解や就職支援に役立つと思う検査やツールがあれば、以下にご記入ください。

(自由記述)

4-2 検査やツールを実施する場合の条件として、望ましいと思うものに○をつけてください。

a. 実施にかかる時間（1回あたりの実施時間として、望ましいもの1つに○）

① 30分未満	② 30分以上60分未満	③ 60分以上90分程度	④ 時間にはこだわらない
---------	--------------	--------------	--------------

b. 価格（学生一人につき、検査やツール代にかかる費用として、望ましいもの1つに○）

① 300円未満	② 300円以上500円未満	③ 500円以上1000円未満	④ 1000円以上1500円程度	⑤ 価格にはこだわらない
----------	----------------	-----------------	------------------	--------------

c. 検査の実施者と形態（望ましいもの1つに○）

① 職員・相談員・教員等が説明しながら集団で実施	② 職員・相談員・教員等が個別相談の中で実施	③ 委託業者の担当者が説明しながら集団で実施
--------------------------	------------------------	------------------------

d. 採点の方法（望ましいもの1つに○）

① 職員・相談員・ 教員等が採点	② 職員・相談員・ 教員等が説明し ながら学生自身 が自己採点	③ 委託業者の担当 者が説明しなが ら学生自身が自 己採点	④ 業者による採点	⑤ その他
---------------------	--	--	-----------	-------

e. 形式（①～④の実施の形式について、あてはまる番号にそれぞれ○）

実施形式	望ましい	まあ 望ましい	あまり望ま しくない	望ましく ない	わからない
① ペーパーテスト	1	2	3	4	5
② カード分類方式のツール	1	2	3	4	5
③ パソコンを使って学生が一人で実施で きるツール	1	2	3	4	5
④ 小グループ形式で使う体験型ツール	1	2	3	4	5

4-3 学生の就職支援に用いられる検査やツールに関して、ご意見がありましたら、自由にお書きください。

（自由記述）

5. 職業情報：仕事や職業の理解について

5-1 学生に提供する仕事や職業に関する情報（職業情報）としては、どのような内容が必要とご思いますか。以下の①～⑨の中で必要と思うもの、すべてに○をつけてください（○はいくつでも）。

① 仕事の内容、具体的に何をどのよう にするか	④ その仕事に就くために必要な教育訓 練・免許資格	⑦ 仕事をイメージできる写真
② その仕事のおもしろさややりがい	⑤ 労働条件（賃金、時間、他）	⑧ 仕事をしている場面等の動画
③ その仕事に向いている人	⑥ その仕事の業界の動向や将来性	⑨ 実情についての口コミ的な情報

5-2 現在、学生に職業情報を提供するために使っている書籍やインターネットサイト、学生に勧めている書籍やインターネットサイトがありますか。あれば、以下に具体的にご記入ください。

（自由記述）

5-3 このような職業情報に、就職課・キャリアセンターとしては何を期待しますか（あてはまるものすべてに○）。

職業情報に期待すること	あてはまるものすべてに○
① 就職活動に向けて学生が職業に興味を持つこと（動機づけ）	
② 世の中に様々な職業があることを学生がわかること	
③ 多くの職業の中には興味、適性を生かせるものがあることがわかること	
④ その仕事に就くために必要な具体的な教育訓練や免許資格がわかること	
⑤ 就職後、実際にどのような仕事をするか具体的に学生がわかること	
⑥ 就職して5年後、10年後、どのような仕事をしているかわかること	
⑦ 職業毎の具体的な賃金の水準や勤務時間等労働条件がわかること	

5-4 職業情報としてはどのような特性や特徴が必要でしょうか。以下について必要と思うものに○をつけてください（あてはまるものすべてに○）。

職業情報に必要な特性や特徴	あてはまるものすべてに○
① 内容が新しく、情報が新鮮なこと	
② 公平性・中立性	
③ 正確性・信頼性	
④ 職種に偏りなく、全体がわかる網羅性	
⑤ 視覚的な情報があること（写真／動画）	
⑥ 学生に勧められるよう、無料あるいは廉価であること	

5-5 上記について、職業情報全般の現状はどうでしょうか。以下について「不足している」、「十分でない」と感じられるものに○をつけてください（複数選択、○はいくつでも）。

職業情報に必要な特性や特徴	あてはまるものすべてに○
① 内容が新しく、情報が新鮮なこと	
② 公平性・中立性	
③ 正確性・信頼性	
④ 職種に偏りなく、全体がわかる網羅性	
⑤ 視覚的な情報があること（写真／動画）	
⑥ 学生に勧められるよう、無料あるいは廉価であること	

5-6 職業情報に関する書籍やインターネットサイトについて、今後、どのようなことを期待しますか。以下に具体的にお書きください。

（自由記述）

6. 具体的な求人情報

6-1 貴学の学生は、求人情報を主にどのようなところから得ていると思われますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

求人情報の入手先	あてはまるものすべてに○
① 民間のインターネットサイトの求人情報	
② 就職課やキャリアセンターからの求人情報	
③ 民間の冊子や雑誌の求人情報	
④ 会社説明会（合同、個別）での求人情報	
⑤ ハローワークや公的機関からの求人情報	
⑥ インターネットの書込み等からの情報	
⑦ 大学や学部、教員の紹介	
⑧ 学科の先輩からの紹介	
⑨ サークルや部活の先輩からの紹介	
⑩ 親戚、知人やアルバイト先からの紹介	

6-2 具体的な求人情報に関して、どのように思われますか。以下に関して、それぞれあてはまる番号に○をつけてください（○は1つだけ）。

求人情報に関して	そう思う	どちらともいえない	そう思わない
① 学校（就職課、キャリアセンター他）がもっと求人情報を集めるとよい	1	2	3
② OB や OG、卒業生から求人情報をもっと集められるとよい	1	2	3
③ 公的機関や民間会社が求人情報をもっと収集し、学校に提供するとよい	1	2	3

7. 就職課・キャリアセンター全般について

7-1 【就職課／キャリアセンターの重点課題】

貴課・貴センターが、現在あるいは中長期的に重点的に取り組んでいる課題は何ですか。以下の中で該当するものに○をつけてください。該当する項がない場合は⑰を使ってください（○はいくつでも）。

① 就職課・キャリアセンター利用の促進	② 低学年からのキャリアに対する意識づけ	③ インターンシップの充実
④ 学校独自のキャリア教育プログラムの開発や充実	⑤ 就活意欲の低い学生や就職困難な学生への呼びかけやアプローチ	⑥ 就職率のアップ
⑦ 個別相談体制の充実	⑧ 卒業生への情報提供・サービスの開始や充実	⑨ 保護者への情報提供・サービスの開始や充実
⑩ 教育情報産業関連の企業・業者との連携や活用	⑪ 他大学・教育機関などとのネットワークの確立や充実	⑫ 学内のキャリア支援サービスのネットワーク化やその充実
⑬ 専門教育とキャリア教育の融合	⑭ キャリア教育に向けた、教職員に対する意識啓発	⑮ 学生の個人別情報把握と整備
⑯ センタースタッフのスキルアップ	⑰ その他（自由記述）	

7-2 【キャリア教育への関わり】

学校の単位認定の対象となるキャリア教育関連授業の内容（例：「キャリアデザイン」等）について、貴学の就職課・キャリアセンターは、どの程度かかわっていますか。①～④のうち1つに○をつけてください。関わりを持っている場合には具体的にお書きください。

① 全くない	② ほとんどない	③ ややある	④ ある
--------	----------	--------	------

※③・④とお答えの場合、具体的なかかわり方についてお書きください。

〔 具体的なかかわり方： 〕

7-3 大学、短大、高等専門学校、専門学校等でのキャリアガイダンスや就職支援に関して、現在、どのような点が問題でしょうか。また今後、どのようになるとよいと思いますか。以下に自由にご記入ください。

(自由記述)

7-4 貴学の就職課・キャリアセンター等の体制についてお答えください。

(1) 就職支援に関する人数（常勤、非常勤含む）について

※複数のキャンパスがある学校では、ご回答者が勤務されているキャンパスについてお答え下さい。

*人数 _____ 名 (うち常勤 _____ 名)

(2) 上記の就職支援を担当する常勤の職員の中で、就職支援や人事関連の経歴（例：企業の人事部出身等など）を生かして、転職等により貴学へ入職した方はいますか。また、その方々の現在の職掌は何ですか（複数の場合は主な職掌についてお答えください）。

① いる	② いない
------	-------

*主な職掌：

(3) このアンケートに対する回答に関して、内容の確認等のため、担当から連絡させていただく場合があります。可能な範囲で結構ですので、以下にご記入をお願い致します。ご都合の悪い場合は無記名でも結構です。なお、E-MAIL アドレスをいただければ、このアンケートの集計結果がまとまり次第、結果をお知らせ致します。

貴校名	ご所属先部署
	ご所属先電話番号 TEL:
お名前	E-MAIL

ご協力ありがとうございました。

JILPT 調査シリーズ No.116

大学・短期大学・高等専門学校・専門学校における
キャリアガイダンスと就職支援の方法
—就職課・キャリアセンターに対する調査結果—

発行年月日 2014年3月27日

編集・発行 独立行政法人 労働政策研究・研修機構

〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

(照会先) 研究調整部研究調整課 TEL:03-5991-5104

印刷・製本 有限会社 太平印刷

©2014 JILPT

* 調査シリーズ全文はホームページで提供しております。(URL:<http://www.jil.go.jp/>)